

松江市の文化に対する意見書

松江市 御中

(株)メディアスコープ 中尾禎仁

松江市の歴史・文化資源は、山陰の中では最もポテンシャルの高いものであり、市民にとっては、最も誇り高き財産です。また、戦災にあっていないこともあり、当時の姿がまだまだたくさん残されており、そんな中で日々生活している市民はとても贅沢なことだと思っています。

これら資源を子孫たちに承継していくためには、本事業は非常に有益であり、市民が地域文化に対して触れ、活用するための大切な指針となります。

私は、「文化条例等の構成イメージ(案)」の中の「柱に共通する六つの視点」をもとに具体的な意見をさせていただきます。

① 「知る」「伝える」「育てる」

将来を担う、子供たちに今の歴史・文化を伝える上で、学校教育だけでは全く足りないと思います。私たちが子供の時に学校や地区の行事で地元の歴史・文化施設に数回行った記憶はありますが、最も記憶に残るのは親に連れて行ってもらったことです。

そのためには、親に対する地域の歴史・文化の教育となる機会を増やすことが必要であると思います。

例：松江城・歴史館・小泉八雲記念館などの施設の入場料について親子で来た場合のみ大人と子供の入場料を免除する「松江歴史・文化承継制度(仮称)」を創設

② 「伝える」「支える」

① によって大人が子供を連れていく機会を市民が市内を観光する行動と捉えると、大人自身も松江の歴史・文化を学び知る事にもなります。その大人が、松江の歴史・文化の魅力を認識したうえで業務等により市外へ出向いた時には、出先の仕事関係者に対して松江の魅力を伝えることにより、結果的に来松を促すことになり、観光収入に繋がります。

例1：①と合わせた事業として「市民の市内観光」の推進

例2：経済界を通じて企業の営業マンを対象とした「市民観光大使制度(仮称)」を作る
※名刺を市民観光大使に作り、市外で配るなどついでに観光営業をしてもらう

③ 「創造する」「活用する」

市民団体等が、文化財や水辺などを活用した活動をする場合、様々な規制があり思うように活用できない場合があります。できれば、様々な規制をできるだけ緩和し、活動しやすい環境を作っていただきたいです。そのうえで、歴史・文化に特化した活動する機会を作っていただきたいです。

例：食文化なども含めた松江ならではの文化事業行う「松江文化月間(仮称)」の創設

※できれば2月にあてることで、冬季観光誘客にも繋がる